

私と山村留学、そして売木村

売木村教育長 菊川 和広

新型コロナウイルス感染症が蔓延し、今まで考えてもみなかった生活が始まりました。

山村留学生も然り。三月早々、「修園のつどい」も行わずに帰っていただき、四月、「入園のつどい」は開催したものの出席停止とし、二週間の学園待機。保護者の方々も「入園のつどい」以降は、月に一度ほどある行事もご遠慮いただき、リモートやブログで学園生の元気な姿を確認するのみ。とてもつらく厳しい状況に誰もが我慢した一学期でした。それを乗り越えた学園生とその保護者の皆さんに敬意を表します。二学期のスタートも同様に、感染予防対策を十分に取リながらになりそうです。何が正しいのか、判断は誤っていないのか、毎日、自問自答の日々が続きます。

少し前まで九月入学が話題となっていました。ある日、職員が「山村留学はどうなるんで

しょうかねえ。前年の学園生が育てた作物で収穫祭なんかできますかねえ……」。

なるほど確かに。日本は春夏秋冬で一年となります。種を撒き、育て、収穫をし、厳しい冬をしのぎ、春を待ちます。山村留学にとってこの大事なサイクルは変えられません。かといって学年途中、春からの転人も無理があります。私論を言えば、義務教育九年間はこのままで高校教育を半年縮めるのはいかかと思っています。何もすべての区切りを一年単位にする必要もなく、高校生活を二年半とし、三年生は残る半年を就職あるいは受験のために。自分の高校三年生を振り返っても受験勉強が主で、受験に関係ない科目はかなり疎かおろそかになっていたように記憶しています。戯言たわごとをと一笑に付されそうですが、これ以上、修学時期を延ばすよりも、早く社会参加したほうがいいと思うのですが。就学費も助かりますし。

私と育てる会とのお付き合いは昭和五十八（1983）年にさかのぼります。売木学園が始まる年であり、その指導員を募集していました。その頃の私は大学を卒業していましたが思うところあり就職浪人をしておりました。大学の恩師から勧められ面接に出かけますと、青木孝安（育てる会・現会長）先生が「いやあごめん、ごめん。もう決まっちゃってさあ。売木村で職員募集しているからどう。何年かやってうちへ来ればいいから」と、あの笑顔で話され、納

得させられた自分がいました。売木村は縁もゆかりもない土地ではありませんでしたが、私の思うところの職種でもあり、青木孝安先生の言葉に孤独感を感じることなく売木村での生活が始まりました。最初の年は短期のリーダーや、第一期生の対応もしましたが、だんだんと自分の仕事も忙しくなり、そして楽しくなり、育てる会への考えもいつしか消えていました。しかし、青木先生に出会うたびに「君の大学に職員募集したら、いい子が入ってねえ」などとよく話をしていただき、いつも気にかけていただきました。行政職の異動を重ね、だいぶ疎遠となりましたが、七年前から教育委員会に再びお世話になり、学園長の役もいただきました。公職の最後に、また山村留学に係わることができ、縁があることを感じています。

売木村は三州街道と遠州街道に挟まれてはいますが、大きな峠に拒まれ人の行き来の少ない農村でしたので、来訪者を丁重にもてなす風土が残っています。私のような鼻っ柱の強い若造をも温かく迎え入れていただき、以来すっかり居心地よく住み着いている次第です。山村留学も然り。複式学級^{ふくしきがっきゅう}回避のために始まったこの村の山村留学ですが、今ではそれだけでは回避できないほどの児童・生徒数です。運営費もかなり高額です。にもかかわらず三十七年もの長きにわたり廃止論が出ないのは、この温かく人を迎え入れる村民性の賜物と思っています。修

園生がふらっと農家を訪れ、泊めたあげくにお土産をたくさん持たせた、という話をよく聞きます。今年のコロナ禍でも他県から来る学園生を拒むのではなく、入園できたことを喜ぶ声を多く聞かせていただきました。売木の学校に赴任されてきた先生方が「売木の子ども達は転校や体験入学で来る子を自然体で受け入れている」と驚きます。ここでは当たり前のように村に山村留学があるのです。

現在、売木村の人口は五百三十人。「うるぎ600」をスローガンに何としても六百人の人口に振り戻そうと努力しているところ です。そのひとつがインターン政策です。その成果が如実に表れているのが児童数です。学園生を除く二十一名のうち十四名がインターン者のお子さんです。もちろんすべてが転校生ではなく、この地で生まれ育った子ども達も多くいます。何を隠そう私自身もあの頃はインターンという言葉もありませんでしたが、そのはしりのようなもの。今でこそ離れて暮らしていますが、娘二人も売木村をふるさととして誇りを持ち続けてくれています。古き良き村民性を保ちながら、新たな時代の売木村になりつつあります。

きくがわ・かずひろ

長野県売木村教育長、山村留学売木学園長。埼玉県出身。大学卒業後、売木村職員として社会教育主事、産業課長、教育委員会事務局長などを経て平成二十七(2015)年より現職。